みらい青空学園

学校だより10月号
令和8年9月30日発行
発行責任者：坂本　司
電話 03-3957-2151(小学部)
03-3957-3133(中学部)

未来を切り拓く「行動と勇気」　～生成ＡＩの導入にあたって～

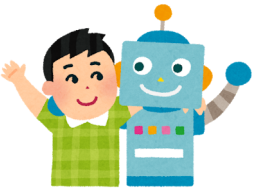
校長　坂本　司



生成ＡＩが身近なものとなり、それを適切に使いこなす力の育成が求められています。学校教育においても同様であり、練馬区では10月より中学生は生徒用タブレット端末において生成ＡＩが利用可能となります。生徒が自分の考えを整理・発展させるための補助的なツールとして活用し、多様な視点や新たな発想を得ることを目的としています。導入に当たっては、区内のパイロット校での実践や教員研修を通じた検証を行い、練馬区独自のガイドラインを策定するなど、安全な利用環境の整備が進められてきました。

近年、ＡＩに関してはその便利さの一方で、安全性や倫理的なリスクに関する報道を目にすることも増えました。こうした技術の「影」の側面を考えると、私は1980年代のあるＳＦ映画を思い出します。2029年、意思をもった人工知能が起こした戦争により、人類は危機に瀕していました。しかし、人類はリーダーのもとで反撃し、敗北を恐れた人工知能は人類のリーダーが生まれる前の1984年の過去にロボットを送り込みます。歴史を変えるため過去へ送られたロボットと、命を守ろうとする人類との闘いを描いたＳＦアクション作品です。かつて純粋なフィクションだった世界ですが、ＡＩが急速に浸透する現代においては、現実的な警鐘のようにも感じられます。

一方で、この翌年に公開されたもう１つの映画があります。1985年、高校生の主人公は、親友の科学者が車を改造して作ったタイムマシンに乗って、30年前の1955年にタイムスリップし、若き日の両親を結び付けて自身の未来を取り戻すＳＦアドベンチャー作品です。続編で描かれた30年後の2015年の未来には、ビデオ通話やドローン、生体認証など、現在の社会で実際に実現した技術が多く予言されていました。そこには「技術で生活や人生を豊かにできる」「自分の行動と勇気次第で、未来はより良く変えられる」という、前向きでワクワクするような「光と希望」が満ちあふれていました。



ほぼ同時期に公開されたこの２つの作品は、テクノロジーの進化に対する「不安と恐怖」と「期待と希望」という対極の姿を示しているように思います。高度な技術が日常となるこれからの時代を生きていく子供たちに必要なのは、リスクを正しく理解して対策しつつも、過度に恐れることなく技術を賢く使いこなし、より良い社会や自身の未来を自らの手で創り出していく「行動と勇気」です。学校が子供たちにとって、そのような挑戦の心と未来への希望を育む場となるよう、教職員一同、日々の教育活動に努めてまいります。

この学校だより10月号が発行される９月30日は、みらい青空学園の記念すべき第１回「音楽祭」です。ご来場いただきました保護者・地域の皆様、ご協力いただきましたみらい青空サポーターズの皆様のご理解ご支援に、子供たちへの温かな声援と拍手に、心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

☆開校記念式典のご案内☆

開校記念式典の様子を、保護者の皆様向けに北体育館にてオンライン配信(パブリックビューイング形式)をいたします。保護者の皆様におかれましても、学校の節目を一緒にお祝いしていただければ幸いです。お時間がございましたら、ぜひご参加くださいますようご案内申し上げます。

日　時：11月14日(土) 午前9時30分 開式

※開校記念式典の後に、吹奏楽部による演奏と全校合唱があります。

場　所：北体育館(保護者向けオンライン視聴会場)

持ち物：上履き、下足袋